

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.0

インストールガイド

For Use with Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.0

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.0 インストールガイド

For Use with Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.0

法律上の通知

Copyright © 2018 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

 $\mathsf{Linux}\ {}^{\textcircled{\sc 8}}$ is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS [®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

 $MySQL \ \ensuremath{\mathbb{B}}$ is a registered trademark of $MySQL \ AB$ in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

This book is a guide to the installation of Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.0.

目次

第1章 製品の概要 1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 7 1.2. RED HAT カスタマーポータル 1.3. 本書における EAP_HOME の使用	3 3 3 3
第2章 インストールの準備 2.1. JBOSS EAP のインストール方法の選択 2.2. JBOSS EAP インストールの要件	5 5
 第3章 JBOSS EAP のインストール 3.1. ZIP インストール 3.1.1. JBoss EAP のダウンロード (ZIP インストール) 3.1.2. JBoss EAP のインストール (ZIP インストール) 3.2. インストーラーによるインストール 3.2.1. JBoss EAP のダウンロード (インストーラーによるインストール) 3.2.2. JBoss EAP インストーラーの実行 3.3. RPM インストール 3.3.1. リポジトリーの選択 3.3.1.1. 現行の JBoss EAP 7 リポジトリーのサブスクリプション 3.3.2. JBoss EAP のインストール (RPM インストール) 3.3. リポジトリーの変更 3.4. 自動インストーラーによるインストール 3.4.1. 無人自動インストーラーによるインストール 	7 7 7 8 8 22 23 23 23 23 24 24 25
 第4章 サービスとして実行するよう JBOSS EAP を設定 4.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (ZIP およびインストーラーによる ンストール) 4.2. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (RPM インストール) 4.3. MICROSOFT WINDOWS SERVER で JBOSS EAP をサービスとして設定 4.4. JSVC を使用して JBOSS EAP をサービスとして設定 第5章 JBOSS EAP のアンインストール 5.1. JBOSS EAP のアンインストール (ZIP インストール) 5.2. JBOSS EAP のアンインストール (インストーラーによるインストール) 5.3. JBOSS EAP のアンインストール (RPM インストール) 	27 27 28 29 31 37 37 37

第1章 製品の概要

1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 7

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7 (JBoss EAP) は、オープンな標準に基いて構築され、Java Enterprise Edition 7 の仕様に準拠するミドルウェアプラットフォームです。メッセージング、高可用性クラスタリングなどの技術が WildFly Application Server 10 と統合されます。

JBoss EAP には、必要な場合にだけサービスを有効にできるモジュール構造が含まれ、サービスの起動 時間が短縮されます。

管理コンソールと管理コマンドラインインターフェース (CLI) により、XML 設定ファイルの編集が不必 要になり、タスクをスクリプト化および自動化する機能が追加されました。

JBoss EAP は、JBoss EAP インスタンスに対してスタンドアロンサーバーと管理対象ドメインの2つの操作モードを提供します。スタンドアロンサーバー操作モードでは、実行している JBoss EAP を1つのサーバーインスタンスとして表します。管理対象ドメイン操作モードでは、1つの制御ポイントから複数の JBoss EAP インスタンスを管理できます。

また、JBoss EAP には、セキュアでスケーラブルな Java EE アプリケーションの迅速な開発を可能に する API と開発フレームワークが含まれます。

1.2. RED HAT カスタマーポータル

Red Hat カスタマーポータルは、Red Hat のナレッジリソースやサブスクリプションリソースを管理 する集中プラットフォームです。**Red Hat カスタマーポータル**では、以下のことを行えます。

- Red Hat エンタイトルメントやサポート契約の管理および維持。
- 正式サポートされたソフトウェアのダウンロード。
- 製品ドキュメントや Red Hat ナレッジベースの利用。
- グローバルサポートサービスへの連絡。
- Red Hat 製品のバグの登録。

カスタマーポータルには https://access.redhat.com からアクセスできます。

1.3. 本書における EAP_HOME の使用

本書では、変数 EAP_HOME を使用して JBoss EAP へのパスを示しています。この変数は JBoss EAP イ ンストールへの実際のパスに置き換えてください。

- ZIP インストール方法で JBoss EAP をインストールした場合、インストールディレクトリーは、ZIP アーカイブを抽出した jboss-eap-7.0 ディレクトリーとなります。
- RPM インストール方法で JBoss EAP をインストールした場合、インストールディレクトリーは /opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/ になります。
- インストーラーを使用して JBoss EAP をインストールした場合、EAP_HOME のデフォルトのパ スは \${user.home}/EAP-7.0.0 になります。
 - Red Hat Enterprise Linux、Solaris、および HP-UX では、/home/USER_NAME/EAP-7.0.0/ になります。

- Microsoft Windows の場合、C:\Users\USER_NAME\EAP-7.0.0\ になります。
- JBoss Developer Studio インストーラーを使用して JBoss EAP サーバーをインストールおよび設定した場合、EAP_HOME のデフォルトのパスは \${user.home}/jbdevstudio/runtimes/jboss-eap になります。
 - Red Hat Enterprise Linux の場 合、/home/USER_NAME/jbdevstudio/runtimes/jboss-eap/ になります。
 - Microsoft Windows の場 合、C:\Users\USER_NAME\jbdevstudio\runtimes\jboss-eap または C:\Documents and Settings\USER_NAME\jbdevstudio\runtimes\jboss-eap\ になります。



注記

EAP_HOME は環境変数ではありません。JBOSS_HOME がスクリプトで使用される環境変数です。

第2章 インストールの準備

2.1. JBOSS EAP のインストール方法の選択

JBoss EAP 7 をインストールする方法は複数あります。状況によって最適な方法は異なります。以下の 表には、各インストールタイプの概要と、関連するインストールプロセスに関する項へのリンクが記載 されています。



注記

JBoss ON を使用して JBoss EAP パッチをデプロイおよびインストールする場合、ZIP インストールで対象の JBoss EAP インスタンスをインストールする必要があります。

表2.1 インストール方法

方法	説明
ZIP インストール	 ZIP アーカイブを使用したインストールは、サポートされるすべてのオペレーティングシステムに適しています。インスタンスを手動で展開したい場合はこの方法を使用してください。 ZIP インストールは JBoss EAP のデフォルトインストールをインストールします。設定はすべてインストールした後に行う必要があります。
JAR インストーラー	JAR インストーラーはコンソールで実行したり、グラフィカルウィザー ドとして実行することができます。いずれの場合も、サーバーインスタ ンスのインストール手順および設定手順がステップごとに表示されま す。サポートされるすべてのプラットフォームでは、この方法で JBoss EAP をインストールすることが推奨されます。 このインストーラーを使用すると、クイックスタートや Maven リポジ トリーなどの追加設定を行うこともできます。
RPM インストール	Red Hat Enterprise Linux 6 および Red Hat Enterprise Linux 7 の サポートされるインストールでは、RPM パッケージを使用して JBoss EAP をインストールできます。

2.2. JBOSS EAP インストールの要件

各インストール方法には複数の要件があります。以下の表は、一般的な要件と各インストール方法に固 有の要件を示しています。

表2.2 JBoss EAP インストールの要件

インストールタイプ 要件

インストールタイプ	要件
一般的な要件	 Red Hat カスタマーポータル でアカウントを設定する必要があります。 JBoss EAP 7 でサポートされる構成 を確認し、システムをサポートできる状態にしてください。 Red Hat がリリースした更新とエラータを適用し、システムが最新の状態であるようにしてください。
ZIP またはインストーラーの要件	 サポートされる Java Development Kit (JDK) がインストール されている必要があります。 Microsoft Windows Server では、JAVA_HOME および PATH 環境変数が設定されている必要があります。設定されて いないと、ショートカットが動作しません。 Hewlett-Packard HP-UX では、unzip ユーティリティーがイ ンストールされている必要があります。
RPM の要件	 Red Hat Subscription Manager を使用して Red Hat Enterprise Linux サーバーを登録する必要があります。 サポートされる Java Development Kit (JDK) がインストール されている必要があります。

第3章 JBOSS EAP のインストール

3.1. ZIP インストール

3.1.1. JBoss EAP のダウンロード (ZIP インストール)

要件

• JBoss EAP インストールの要件

JBoss EAP の ZIP ファイルは Red Hat カスタマーポータルから入手できます。ZIP ファイルのインス トールはプラットフォームに依存します。

JBoss EAP の ZIP ファイルのダウンロード

- 1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータル (https://access.redhat.com) にログインし ます。
- 2. ダウンロードをクリックします。
- 3. 製品のダウンロードリストの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform をク リックします。
- 4. Version ドロップダウンメニューから JBoss EAP の正しいバージョンを選択します。
- 5. リストで Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7. x.x を見つ け、Download リンクをクリックします。

3.1.2. JBoss EAP のインストール (**ZIP** インストール)

JBoss EAP の ZIP インストールファイルをダウンロードしたら、パッケージの内容を展開するとイン ストールできます。

- 1. 必要な場合は、JBoss EAP をインストールするサーバーおよび場所に ZIP ファイルを移動します。
 - JBoss EAP を実行するユーザーは、このディレクトリーへの読み書きアクセスが必要になります。
- 2. ZIP アーカイブを展開します。

\$ unzip jboss-eap-7.x.x.zip



注記

Windows Server の場合は ZIP ファイルを右クリックし、**すべて展開** を選択し ます。

ZIP アーカイブを展開して作成したディレクトリーは、JBoss EAP インストールの最上位ディレクト リーとなります。このディレクトリーを EAP_HOME と呼びます。

3.2. インストーラーによるインストール

3.2.1. JBoss EAP のダウンロード (インストーラーによるインストール)

要件

• JBoss EAP インストールの要件

JBoss EAP JAR インストーラーは Red Hat カスタマーポータルから入手できます。.jar アーカイブ を使用して、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを実行できます。サポートされるす べてのプラットフォームでは、インストーラーを用いて JBoss EAP をインストールする方法が推奨さ れます。

JBoss EAP インストーラーのダウンロード

- 1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータル (https://access.redhat.com) にログインし ます。
- 2. ダウンロードをクリックします。
- 製品のダウンロードリストの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform をク リックします。
- 4. Version ドロップダウンメニューから JBoss EAP の正しいバージョンを選択します。
- 5. リストで Red Hat JBoss Enterprise Application 7.x.x Installer を見つ け、Download リンクをクリックします。

3.2.2. JBoss EAP インストーラーの実行

JBoss EAP JAR インストーラーは、グラフィカルまたはテキストモードで実行できます。

JBoss EAP グラフィカルインストーラーの実行

- 1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR ファイルが含まれる ディレクトリーに移動します。
- 2. 以下のコマンドを実行して、グラフィカルインストーラーを起動します。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar

Hewlett-Packard HP-UX または Solaris の環境では、-d32 または -d64 ス イッチを使用して、必要なアーキテクチャーを指定できます。以下のいずれかの コマンドを実行してインストーラーを起動します。

java -jar -d32 jboss-eap-7.x.x-installer.jar

または

注記

java -jar -d64 jboss-eap-7.x.x-installer.jar

3. 以下の表の手順を実行します。

表3.1 JBoss EAP インストーラー画面

画面の名前	表示されるタイミング	説明
言語の選択	常時	インストーラーの言語を選択し、 OK をクリッ クします。
ライセンス同意書	常時	RED HAT JBOSS MIDDLEWARE のエンドユー ザーライセンス契約。 「I accept the terms of this license agreement (ライセンス契約の内容に同意しま す)」を選択し、 Next をクリックします。
インストールパス	常時	JBoss EAP のインストールパスを選択し、 Next をクリックします。
コンポーネントの選択	常時	インストールするコンポーネントを選択しま す。必要なコンポーネントは選択を解除できま せん。
	図3.1 JBoss E	AP インストーラー: コンポーネント選択画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTERPRIS	E APPLICATION PLATFORM
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete 	Disabled packs are required. Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 183.99 MB ☑ AppClient 38.94 MB ☑ Docs 84.4 MB ☑ Modules 157.18 MB ☑ Welcome Content 2.11 MB
	_Descr Total s Availat	iption pace required: 183.99 MB le space: 89.65 GB Quit ∢ Previous Next.>
	·	
管理ユーザーの作成	常時	管理ユーザーを作成し、パスワードを割り当て ます。次に Next をクリックします。
インストールの概要	常時	インストールオプションを確認した後、 Next をクリックします。
コンポーネントのイン ストール	常時	インストールの処理が完了したら、 Next をク リックします。

画面の名前	表示されるタイミンク	1 説明
ランタイム環境の設定	常時	JBoss EAP インストールのデフォルト設定を選 択するか、インストーラーで詳細設定を実行す ることができます。デフォルト設定を選択して も、後で JBoss EAP 管理インターフェースを使 用して設定を変更できます。 Perform default configuration または Perform advanced configuration を選択 し、設定する項目を選択してから Next をク リックします。
	図3.2 JBoss I	EAP インストーラー: ランタイム環境設定画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTER	PRISE APPLICATION PLATFORM
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete 	PRISE APPLICATION PLATFORM COnfigure runtime environment There are several additional options for configuring Red Hat JBoss Enterprise Application Platform now that the server has been installed. Each option can be individually chosen, and will be configured in the order displayed upon pressing next. What would you like to onow? Perform default configuration Perform advanced configuration Install password vault Enable SSL security Add a security-domain Install quickstarts Configure lover port bindings Install DBC Driver Install Datasource
パスワード vault の 設定	ランタイム環境の詳細 設定でパスワード vault のインストール を選択したとき。	 Configure a password vault to store all your sensitive passwords in an encrypted keystore, then click Next. For more information, see the password vault documentation in the How To Configure Server Security guide.

画面の名前	表示されるタイミング 図3.3 JBoss EA	説明 P インストーラー: パスワード vault 設定画面
		IBoss FAP _ X
	RED HAT JBOSS ENTERP License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime Password Vauit Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete Value Saite Server Shortcut Configuration Installation Complete Value Saite Server Shortcut Configuration Installation Complete Value Saite Server Saite Server Shortcut Configuration Installation Complete Value Saite Server 	RISE APPLICATION PLATFORM ONFigure password Vault bassword vault encrypts sensitive strings and stores them in an encrypted keystore. e vault mechanism manages decrypting the strings for use with security domains, uritry realms, or other verification systems. Note that the keystore must be of type EKS". asse make note of your entry below in order to mask any subsequent passwords. See use EAP 7 documentation for further details. e password must have no fewer than 6 characters. ult alias: t (8-chars) 8675309K ration count 44 ult keystore password:
	R N E	III keystore password: eventer vault keystore password: w Keystore location: nome/username/EAP-7.0.0/vault.keystore crypted file directory: Quit Previous Next >
SSL セキュリティー	ランタイム環境の詳細 設定で SSL セキュリ ティーの有効化を選択 したとき。	Specify an SSL keystore and the keystore password for securing the JBoss EAP management interfaces, then click Next . For more information, see the documentation on securing the management interfaces in the How To Configure Server Security guide.
		警告 Red Hat では、影響する すべてのパッケージで TLSv1.1 または TLSv1.2 を利用するために SSLv2、SSLv3、および TLSv1.0 を明示的に無効 化することを推奨してい ます。

画面の名前	表示されるタイミング	説明
LDAP の設定	ランタイム環境の詳細 設定で LDAP 認証の 有効化を選択したと き。	Enable LDAP authentication to use an LDAP directory server as the authentication source for the management console, management CLI, and management API. When you are done, click Next . For more information, see the LDAP documentation in the How to Configure Identity Management guide.
	図3.4 JBos	s EAP インストーラー: LDAP 設定画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTERP	RISE APPLICATION PLATFORM
	License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview an Component Installation	DAP Configuration d Hat JBoss Enterprise Application Platform can be configured to allow you to use a AP server as the authentication and authorization authority, both for applications d the management interface. This is a 2-step process.
	Configure Runtime LDAP Connection 7.2 LDAP Security Realm Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete	Idap.connection rectory Server: Idap.//127.0.0.1:389 stinguished Name (DN): uid=admin.ou=system N Password:
LDAP セキュリティー レルムの設定	ランタイム環境の詳細 設定で LDAP 認証の 有効化を選択したと き。	前のステップで定義された LDAP 接続を使用し て、新しいセキュリティーレルムが作成され、 管理インターフェースに関連付けされます。 Specify the values for your LDAP environment, then click Next . For more information, see the LDAP documentation in the How to Configure Identity Management guide.

画面の名前	表示されるタイミン	・グ 説明		
	図3.5 JBoss EAP	・インストーラー: Ll 面	DAP セキュリティー	レルム設定画
		JBoss E	AP	_ ×
	RED HAT JBOSS ENT	ERPRISE APPLICATION PI	LATFORM	
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime LDAP Connection LDAP Security Realm 8 Configure Server 	LDAP Security Real A new security realm will be adde outbound connection defined in associated with the management form attribute="value", where val username, or of the form filter="v If using an LDAP query, escape "& Security Realm Name: Base DN:	m Configuration d with the attributes below, and will util the previous step. This new security rea interfaces. The value for Filter can eithe ue is the name of the attribute which ho value", where value is a query in standard " with "&" Idap.security.realm dc=myCompany.dc=org	ize the LDAP Im will be r be of the olds the d LDAP syntax.
	9 Shortcut Configuration	Filter Type:	Username attribute	~
	To Installation complete	Username filter:	userName	
		Recursive directory search:	No	~
		Test <u>u</u> ser search	Quit < Pre	vious Next >
Infinispan の設定	ランタイム環境の詳 設定で Infinispan キャッシュのインス トールを選択したと き。	詳細 Create an In cached data configure th For more inf documentat Guide .	finispan cache for n a. Give an Infinispan e other fields, then formation, see the li ion in the Configur	nanaging name and click Next . nfinispan ration

画面の名前	表示されるタイミング	説明	
	図3.6 JBoss EAP インストーラー: Infinispan 設定画面		
	JBoss EAP _ ×		
	RED HAT JBOSS ENTERPRI	ISE APPLICATION PLATFORM	
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Infini Comfigure Runtime Infinispan Cache Shortcut Configuration Evicti Installation Complete 	in ispan Configuration ify information below for creating an infinispan cache. span Name: jbosseap] Name: javajboss/infinispan/jbosseap I Cache Name: jbosseap-cache saction Mode: NONE ion Strategy: NONE ion Max Entries: 50000 ation Max Idle: 100000	
	ニンタイル環境の詳細	Quit (Previous Next)	
セキュリティードメイ ンの設定	ランタイム環境の詳細 設定でセキュリティー ドメインの追加を選択 したとき。	Configure a security domain for the JBoss EAP server instance. Most of the fields ar already populated with default values an do not need modification. When you are done, click Next . For more information, see Security Domains in the Security Architecture Guide .	e d

画面の名前	表示されるタイミング 説明		
	図3.7 JBoss EAP インストーラー: セキュリティードメイン設定画面		
	JBoss EAP _ ×		
	RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM		
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure a security-domain using the fields below. The only required field is the security-domain name. The rest of the fields are optional. Most fields have a predefined list of valid values. Security Domain 7.2 JSSE Security Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete Shortcut Configuration Installation Complete Authentication code: Authentication flag: Authentication options: Client Required Authorization code: Authorization flag: Authentication options: DenyAll Required TestName-testValue Add mapping element: No Authorization code: Authorization flag: Authorization options: DenyAll Required Mapping code: Mapping type: Mapping options: DenvectiveDalee Mapping code:		
JSSE 設定	ランタイム環境の詳細 設定でセキュリティー ドメインの追加を選択 したとき。 キーストアまたはトラストストアのいずれかを 使用して、前のステップで定義されたセキュリ ティードメインの Java Secure Socket Extension (JSSE) を設定します。設定が終わっ たら Next をクリックします。		

	図3.8 J	Boss EAP インストーラー JBoss EAP	─: JSSE 設定画面
	RED HAT JBOSS ENT 4 License Agreement 5 Installation Path 6 Component Selection 7 Admin User Creation 9 Installation Overview 9 Component Installation 9 Configure Runtime 9 SSE Security 8 Configure Server 9 Shortcut Configuration 10 Installation Complete	ERPRISE APPLICATION PLATFOR JSSE Configuration Configure a JSSE element. The JSSE element in to be configured. Add Jsse element Cipher suites used by SSLContext: Protocols used by SSLContext: Alias of client-side keystore: Alias of client-side keystore: Alias of server-side keystore: Third party validation token: Add keystore element JSSE keystore password: Confirm JSSE keystore password: Keystore Provider: Provider argument: Keystore URL: Add Keystore URL: Add Keystore Version Confirm SSE Key	M equires either a keystore or a truststore False KS Quit Previous Next>
クイックスタート	ランタイム環境の語 設定でクイックスタ トのインストールを 択したとき。	洋細 クイックスタートの マー し、 Next をクリッ を選	Oインストールパスを選択 クします。

画面の名前	表示されるタイミング 説明	
	図3.9 JBoss EAI	9 インストーラー : Maven リポジトリーセットアップ 画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTER	PRISE APPLICATION PLATFORM
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime Quickstarts Maven Repository Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete 	Maven Repository Setup A Maven repository is available that allows you to build the quickstarts using the same artifacts that were used to build JBoss Enterprise Application Platform. This repository can be accessed on a publicly hosted server or you can choose to download and install it on a local server. The public schema is located Choose the location of the Maven repository: • Use the publicly hosted Maven repository. • Specify the path (or URL) to the locally installed Maven repository. • Intp://maven.repository.redhat.com/techpreview/all Echoose the Maven settings.xml file to use the above repository: • The default Maven settings.xml located in the /home/user/.m2 directory. • Specify an alternate path to the Maven settings.xml file.
		/home/user/.m2/settings.xml Br <u>o</u> wse
		Quit <previous next=""></previous>
ソケットバインディン グ	ランタイム環境の語 設定でサーバーポー バインディングの語 を選択したとき。	 キ細 -ト ングを使用するかどうか、すべてのデフォルト バインディングにポートオフセットを設定する かどうか、またはカスタムポートバインディン グを設定するかどうかを決定します。 ポートオフセットの設定を選択した場合は、オ フセット番号を選択します。 カスタムバインディングの設定を選択した場合 は、ポートを設定するモード (スタンドアロン モード、ドメインモード、または両方のモード) を選択します。 ホストが IPv6 専用で設定されている場合 は、Enable pure IPv6 configuration (ピュア IPv6 設定を有効化) チェックボックス を選択します。これにより、インストーラーに よって必要な設定変更が行われます。 Next をクリックします。

	図3.10 JBoss	EAP インストーラー:	ソケットバインディング画面
		JBoss EAP	_ ×
	RED HAT JBOSS ENT	ERPRISE APPLICATION PLAT	FORM
	 License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime Port Configuration Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete 	Socket Bindings Configure the socket bindings for Red Select Port Configuration:	Hat JBoss Enterprise Application Platform. for standalone and domain modes. uit port bindings. gs. lalone mode an mode onfiguration, please check the box below.
スタンドアロン設定の カスタムソケットバイ ンディング	スタンドアロンモー にカスタムポート/ ンディングを設定す ことを選択したとき	ード 各スタンドアロ 「イ (standalone する ha、standalo き。 standalone テムプロパティー します。 AP インストーラー・ス	ン設定 、 standalone one full、および full-ha) にポートおよびシス ーを設定し、 Next をクリック
	因3.11 JB055 E	ケットバインディン	ッグの画面
		JBoss EAP	_ ×
		PRISE APPLICATION PLATFORM	
	RED HAY JBOSS ENTER License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation	Socket Binding (standalor ^{Port}	Coptional)
	RED FLAT JEOSSS ENTER License Agreement Installation Path Component Selection Installation Overview Component Installation Configure Runtime Port Configuration Standalone Standalone Full Standalone Full Standalone Full Standalone Full Standalone Full Standalone Full Installation Configuration 	Socket Binding (standalor Port ajp Port Number http Port Number https Port Number management-http Port Number txn-recovery-environment Port Number txn-status-manager Port Number	System Property (Optional) Default Value jboss.ajp.port 8009 jboss.http.port 8080 jboss.https.port 8443 jboss.management.htl 9990 jboss.management.htl 9993 idage 4712

画面の名前 	表示されるタイミン	グ 説明
ドメイン設定のカスタ ムソケットバインディ ング	ドメインモードにカ タムポートバインデ ングを設定すること 選択したとき。	ス ホスト設定 (domain host) および各ドメイン イ プロファイル (domain default、domain を ha、domain full、および domain full-ha) にポートおよびシステムプロパ ティーを設定し、Next をクリックします。
	図3.12 JBoss EAF	9 インストーラー: ドメイン設定のカスタムソケットバ インディングの画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTE	RPRISE APPLICATION PLATFORM
	License AgreementInstallation Path	Socket Binding (domain-host)
	Component SelectionAdmin User Creation	Port System Property Default Value
	 Installation Overview Component Installation Configure Runtime Port Configuration Host 	management-native Port Number jboss.management.na 9999 management-http Port Number jboss.management.htt 9990
	2 Domain 3 Domain Ha 4 Domain Full 5 Domain Full-Ha 8 Configure Server 9 Shortcut Configuration 10 Installation Complete	Quit Previous Next >
ロギングのオプション	ランタイム環境の詳 設定でロギングレベ の設定を選択したと き。	細 希望するロギングレベルを選択し、 Next をク ル リックします。
JDBC ドライバーの セットアップ	ランタイム環境の詳 設定で JDBC ドライ バーをインストール ることを選択したと き。	細 Install and setup a JDBC driver. Choose the appropriate driver vendor from the drop down list and specify the driver JAR location(s). When you are done, click Next . For more information, see the datasource JDBC driver section in the Configuration Guide .

画面の名前	表示されるタイミン	ッグ 説明				
	図3.13 JBoss EA	P インストーラ・	ー: JDBC ドラ	イバー	セットア	ップ画
		JB	oss EAP			_ ×
	RED HAT JBOSS ENT		ON PLATFORM			
	RED HAT JBOSS ENT License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Component Installation Configure Runtime JBC Driver Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete	ERPRISE APPLICATION JDBC Driver Se Red Hat JBoss Enterprise A convert application code t multiple JARs for the drive If your driver is not suppo Driver vendor: Driver JAR locations: JDBC Name: Module Name: XA Classname: Directory Structure:	ON PLATFORM	rts a numbe nguage. It is -7.0.0 nal jar ADataSourc 2/main	er of JDBC drivers, possible to select Browse Remove jar ce (Previous	which Next >
データソースのセット アップ	ランタイム環境の語 設定で JDBC ドライ バーとデータソーフ インストールを選択 たとき。	羊細 Configur イ by applic スの name an Rし then clic the deta the Con	e a datasourc cations. Provid d configure ti k Next . For m ils of datasou figuration G	ce whi de a d he oth nore in rce m uide .	ich can b latasourc ner option nformatic lanagemo	e usec e ns, on, see ent in

画面の名前	表示されるタイミン	グ 説明
	図3.14 JBoss E	AP インストーラー: データソースセットアップ画面
		JBoss EAP _ ×
	RED HAT JBOSS ENTR License Agreement Installation Path Component Selection Admin User Creation Installation Overview Configure Runtime JDBC Driver Datasource Configure Server Shortcut Configuration Installation Complete	Configure the datasource for Red Hat JBoss Enterprise Application Platform below. Name: myNewDatasource JNDI Name: javajboss/MySqIDS Min Pool Size: 0 Max Pool Size: 20 Security Type: Security-domain Datasource type: Datasource Connection URL: jdbc:mysql://SERVER_NAME:PORT/DATABASI Test Datasource Connection
サーバーの設定	常時	設定の処理が完了したら Next をクリックしま す。
ショートカットの設定	常時	Create shortcuts in the Start-Menu (ス タートメニューにショートカットを作成) チェッ クボックスを選択してショートカットを作成し ます。英数字、ダッシュ (-)、および アンダー スコア (_) のみを使用できます。Microsoft Windows では、スラッシュ (/) とバックスラッ シュ (\) も使用できます。Next をクリックしま す。
インストールの完了	常時	選択したインストールオプションを後々自動イ ンストールで使用する場合は Generate installation script and properties file (インストールスクリプトおよびプロパティー ファイルの生成)をクリックします。次 に、Done (完了)をクリックします。 インストールが完了しました。インストーラー によって作成されたディレクトリーはサーバー の最上位ディレクトリーとなります。このディ レクトリーを EAP_HOME と呼びます。

JBoss EAP のテキストベースインストーラーの実行

- 1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR が含まれるディレクトリーに移動します。
- 2. 以下のコマンドを実行して、テキストベースのインストーラーを起動します。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar -console

3. 指示に従って JBoss EAP をインストールします。インストーラーによって作成されたディレク トリーはサーバーの最上位ディレクトリーとなります。このディレクトリーを EAP_HOME と呼 びます。

3.3. RPM インストール

注記

Red Hat Satellite を使用して JBoss EAP インストールを管理するユーザーは、JBoss EAP 7 インストールの管理に Red Hat Satellite 6 を使用することが推奨されますが、 Satellite 5 のユーザー向けに以下の Red Hat Network (RHN) チャンネルも提供されま す。

- Red Hat Enterprise Linux 6 向け:
 - jbappplatform-7.0-i386-server-6-rpm
 - jbappplatform-7.0-x86_64-server-6-rpm
- Red Hat Enterprise Linux 7 向け:
 - jbappplatform-7.0-x86_64-server-7-rpm

Red Hat Satellite 6 ユーザーは、リポジトリーの選択 に記載されているリポジトリー を使用できます。

注記

Red Hat Enterprise Linux 7 より、チャンネル という表現は リポジトリー に変更にな りました。これらの手順では、リポジトリー という表現のみが使用されています。

3.3.1. リポジトリーの選択

RPM から JBoss EAP をインストールするには、**Red Hat Enterprise Linux Server** ベースのソ フトウェアリポジトリーへのサブスクリプションと、特定の JBoss EAP リポジトリーへのサブスクリ プションの両方が必要になります。

JBoss EAP リポジトリーでは、現行の JBoss EAP リポジトリーまたはマイナー JBoss EAP リポジト リーのいずれかのサブスクリプションが必要になります。

現行の JBoss EAP リポジトリー

現行の リポジトリーは最新の JBoss EAP 7 リリースを提供します。JBoss EAP インストールを更新 するときに、マイナーアップグレードを含む JBoss EAP 7 のすべてのアップグレードが提供されま す。

たとえば、このリポジトリーから更新を行うと、JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.1 へのアップグ レードが含まれます (7.1 がリリース済みの場合)。

マイナー JBoss EAP リポジトリー

マイナーリポジトリーは、JBoss EAP 7 の特定のマイナーリリースと適用対象となるすべてのパッ チを提供します。これにより、JBoss EAP 7 の同じマイナーバージョンを維持しながら最新の深刻 度が高いパッチとセキュリティーパッチを適用できます。 たとえば、このリポジトリーから更新を行うと、指定の JBoss EAP マイナーバージョンのパッチお よびセキュリティー更新が含まれますが、JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.1 へのアップグレード は**含まれません** (7.1 がリリース済みの場合)。



注記

本番環境では、マイナー JBoss EAP リポジトリーの使用が推奨されます。これにより、 サブシステムモジュールで予期せぬ変更が発生するリスクや、予期せぬ JBoss EAP の アップグレードによって設定の変更が必要になるリスクを軽減します。アップグレード を受信したい場合は、後でいつでも リポジトリーを変更 できます。

3.3.1.1. 現行の JBoss EAP 7 リポジトリーのサブスクリプション

- Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して、Red Hat Enterprise Linux システム がお持ちのアカウントに登録されているようにしてください。詳細は、Red Hat Subscription Management に関する情報 を参照してください。
- Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して以下のコマンドを実行し、「現行」の JBoss EAP 7 リポジトリーヘサブスクライブします。ご使用の Red Hat Enterprise Linux の バージョンに応じて、RHEL_VERSION を 6 または 7 に置き換えます。

subscription-manager repos --enable=jb-eap-7-for-rhel-RHEL_VERSIONserver-rpms

3.3.1.2. マイナー JBoss EAP 7 リポジトリーのサブスクリプション

- Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して、Red Hat Enterprise Linux システム がお持ちのアカウントに登録されているようにしてください。詳細は、Red Hat Subscription Management に関する情報 を参照してください。
- 2. Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して以下のコマンドを実行し、マイナー JBoss EAP 7 リポジトリーヘサブスクライブします。必ず以下を行なってください。
 - EAP_MINOR_VERSION を目的の JBoss EAPマイナー バージョンに置き換えてください。 たとえば、本リリースのマイナーバージョンの場合は 7.0 を入力します。
 - ご使用の Red Hat Enterprise Linux のバージョンに応じて、RHEL_VERSION を 6 または 7 に置き換えてください。

subscription-manager repos --enable=jb-eap-EAP_MINOR_VERSION-forrhel-RHEL_VERSION-server-rpms

3.3.2. JBoss EAP のインストール (RPM インストール)

要件

- JBoss EAP インストールの要件
- JBoss EAP リポジトリーのサブスクリプション
- 1. 以下のコマンドを実行して、サブスクライブしたリポジトリーから JBoss EAP をインストール します。

yum groupinstall jboss-eap7

インストールが完了します。 RPM インストールのデフォルトの EAP_HOME パスは /opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly になります。

3.3.3. リポジトリーの変更

JBoss EAP インストールのライフサイクルの間に、サブスクライブする JBoss EAP リポジトリーを変 更する必要が生じる可能性があります。リポジトリーの変更は以下の場合のみサポートされます。

「現行」のリポジトリーからマイナーリポジトリーへの変更

最新のマイナーリポジトリーへ変更する場合はサポートされます。

マイナーリポジトリーから他のマイナーリポジトリーへの変更

JBoss EAP の次のマイナーバージョンへ変更する場合はサポートされます。たとえば、JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.1 への変更はサポートされますが、 JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.2 への変更はサポートされません。

マイナーリポジトリーから「現行」のリポジトリーへの変更

最新のマイナーリポジトリーから変更する場合はサポートされます。

要件

- 変更するリポジトリーを選択します。上記の変更条件を満たすようにしてください。

JBoss EAP リポジトリーの変更

1. リポジトリーを変更する前に、以下のコマンドを実行して JBoss EAP インストールに適用でき る更新がすべて適用されるようにしてください。

yum update

 Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して、現在サブスクライブしているリポジト リーのサブスクリプションを解除し、変更する新しいリポジトリーにサブスクライブします。 以下のコマンドの EXISTING_REPOSITORY および NEW_REPOSITORY は適切なリポジトリー 名に置き換えてください。

subscription-manager repos --disable=EXISTING_REPOSITORY -enable=NEW_REPOSITORY

3.4. 自動インストーラーによるインストール

JAR インストーラーを使用して JBoss EAP をインストールすると、以前のインストールから生成され たインストールスクリプトを使用して、今後のインストールを同じ設定内容で自動化できます。

警告

自動化インストーラーは後方互換性を維持しません。旧バージョンの JBoss EAP から生成されたインストールスクリプトを自動インストーラーに使用することはで きません。同じマイナーバージョンの JBoss EAP (JBoss EAP 7.0 など) から生成 されたインストールスクリプトのみを使用してください。

要件

 JAR インストーラーを使用して自動インストールスクリプトを生成します。自動インストール スクリプトは XML ファイルです。

自動インストーラーによるインストール

- 1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR ファイルが含まれる ディレクトリーに移動します。
- 2. 以下のコマンドを実行し、自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用して JBoss EAP をインストールします。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar auto.xml

デフォルトでは、JBoss EAP の設定に必要なパスワードを入力するよう求められます。インス トール用のパスワードを事前設定すると、無人インストールを実行できます。

注記

自動インストールスクリプトの XML ファイルをネットワークホストに保存し、 そのファイルをインストールで使用するよう、HTTP または FTP を使用してイ ンストーラーを示すことができます。例は次のとおりです。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar http://networkhost.local/auto.xml

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar ftp://networkhost.local/auto.xml

3.4.1. 無人自動インストーラーによるインストール

要件

 JAR インストーラーを使用して自動インストールスクリプトを生成します。自動インストール スクリプトは XML ファイルです。

無人自動インストーラーによるインストールを実行するには、JBoss EAP のインストールに必要なパス ワードを事前設定する必要があります。 以前のインストーラーによるインストールからインストールスクリプトの XML ファイルが生成される と、未完成のインストールスクリプト変数ファイルも生成されます。このファイル名はインストールス クリプトファイルと同じですが、末尾に.variables が付きます。

この変数ファイルには、無人自動インストールに必要なキーおよびパスワードパラメーターのリストが 含まれています。

必要はパスワードは、完全な変数ファイルまたはインストーラーコマンド実行時の引数として指定でき ます。

変数ファイルを使用した無人自動インストーラーによるインストール

1. テキストエディターで .variables ファイルを開き、各キーにパスワードの値を指定します。 例を以下に示します。

adminPassword = password#2
vault.keystorepwd = vaultkeystorepw
ssl.password = user12345

 自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用してインストーラーを実行します。完全 な変数ファイルがインストールスクリプトの XML ファイルと同じディレクトリーにあり、 ファイル名が変更されていなければ、インストーラーによって変数ファイルが自動的に検出さ れます。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar auto.xml

Checking for corresponding .variables file Variables file detected: auto.xml.variables [Starting automated installation] ...

別の方法として、-variablefile を使用して変数ファイルへのパスを指定することもできます。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar auto.xml -variablefile auto.xml.variables

-variables 引数を使用した無人自動インストーラーによるインストール

 自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用してインストーラーを実行し、variables 引数を使用して、必要なパスワードをキーと値のペアとして指定します。例を以下 に示します。

java -jar jboss-eap-7.x.x-installer.jar auto.xml -variables adminPassword=password#2,vault.keystorepwd=vaultkeystorepw,ssl.passw ord=user12345



注記

-variables のキーと値のペアを指定するとき、空白を入れないことが重要に なります。

第4章 サービスとして実行するよう JBOSS EAP を設定

4.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX で **JBOSS EAP** をサービスとして設定 (**ZIP** およびインストーラーによるインストール)

要件

- JBoss EAP を ZIP または インストーラー でインストールします。
- サーバーの管理者特権。

Red Hat Enterprise Linux で JBoss EAP をサービスとして設定

jboss-eap.conf ファイルの起動オプションをカスタマイズします。
 起動スクリプトと関連する設定ファイルは EAP_HOME/bin/init.d/ ディレクトリーにあります。テキストエディターで jboss-eap.conf を開き、JBoss EAP インストールのオプションを設定します。

jboss-eap.conf ファイルには複数のオプションがありますが、最低でも JBOSS_HOME と JBOSS_USER の正しい値を指定する必要があります。

You can customize the other options provided in the configuration file by uncommenting and editing the respective lines. If you do not, the service will default to starting a standalone JBoss EAP server using the default configuration file, **standalone.xml**.



注記

If you want the service to start JBoss EAP as a managed domain, add **JBOSS_MODE=domain** to **jboss-eap.conf**.

To specify custom domain configuration files, add JBOSS_DOMAIN_CONFIG=DOMAIN_CONFIG_FILE.xml and JBOSS_HOST_CONFIG=HOST_CONFIG_FILE.xml. By default, JBoss EAP uses domain.xml and host.xml as the domain configuration files.

- 2. サービスファイルをシステムディレクトリーにコピーします。
 - a. 変更したサービス設定ファイルを /etc/default ディレクトリーにコピーします。

sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-eap.conf /etc/default

b. サービス起動スクリプトを **/etc/init.d** ディレクトリーにコピーし、実行パーミッショ ンを付与します。

sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-eap-rhel.sh /etc/init.d sudo chmod +x /etc/init.d/jboss-eap-rhel.sh

3. chkconfig サービス管理コマンドを使用して、自動的に起動されるサービスのリストに新しい jboss-eap-rhel.sh サービスを追加します。

sudo chkconfig --add jboss-eap-rhel.sh

- 以下のコマンドの1つを使用して、サービスが正しくインストールされたことをテストします。
 - a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

sudo service jboss-eap-rhel.sh start

b. Red Hat Enterprise Linux 7 の場合

sudo service jboss-eap-rhel start

サービスが起動します。エラーが発生した場合はエラーログを確認し、設定ファイルのオプ ションが正しく設定されていることを確認してください。

5. Red Hat Enterprise Linux サーバーの起動時にサービスが自動的に起動するようにするに は、以下のコマンドを実行します。

JBoss EAP サービスを削除する場合は、以下の手順に従います。

Red Hat Enterprise Linux での JBoss EAP サービスの削除

- サービスが実行中である場合は、ターミナルを開き、以下のコマンドの1つを使用してサービスを停止します。
 - a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

sudo service jboss-eap-rhel.sh stop

b. Red Hat Enterprise Linux 7 の場合

sudo service jboss-eap-rhel stop

2. サービスのリストから JBoss EAP を削除します。

sudo chkconfig --del jboss-eap-rhel.sh

3. サービス設定ファイルと起動スクリプトを削除します。

sudo rm /etc/init.d/jboss-eap-rhel.sh
sudo rm /etc/default/jboss-eap.conf

4.2. RED HAT ENTERPRISE LINUX で **JBOSS EAP** をサービスとして設定 (RPM インストール)

要件

- JBoss EAP を RPM インストールとしてインストールします。
- サーバーの管理者特権。

sudo chkconfig jboss-eap-rhel.sh on

JBoss EAP の RPM インストールは、JBoss EAP をサービスとして実行するために必要なものをすべて インストールします。以下のコマンドの1つを実行して、システム起動時に自動的に開始するよう JBoss EAP サービスをアクティブ化します。

For the commands below, replace **EAP_SERVICE_NAME** with either **eap7-standalone** for a standalone JBoss EAP server, or **eap7-domain** for a managed domain.

• Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

chkconfig EAP_SERVICE_NAME on

• Red Hat Enterprise Linux 7 の場合

systemctl enable EAP_SERVICE_NAME.service

To start or stop an RPM installation of JBoss EAP on demand, see the RPM instructions in the JBoss EAP **Configuration Guide**.



注記

See the RPM service configuration files appendix in the JBoss EAP **Configuration Guide** for further details and options.

4.3. MICROSOFT WINDOWS SERVER で **JBOSS EAP** をサービス として設定

要件

- JBoss EAP を ZIP または インストーラー でインストールします。
- サーバーの管理者特権。
- JAVA_HOME システム環境変数を設定する必要があります。
- JBoss EAP 7 サーバーインスタンスが実行されていない必要があります。



重要

set コマンドを使用して Windows Server コマンドプロンプトでシステム環境変数を 設定すると、環境変数は永続的に設定されません。setx コマンドを使用するか、コント ロールパネルのシステムインターフェースを使用する必要があります。

Microsoft Windows Server で JBoss EAP をサービスとして設定

- 1. 以下の2つのシステム環境変数を作成します。
 - JBoss EAP インストールディレクトリーを示す JBOSS_HOME
 - NOPAUSE=1
- JBoss Core Services Jsvc パッケージのインストール 設定されていない場合は、JBoss Core Services Jsvc パッケージをダウンロードし、展開しま す。

- a. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータルで JBoss の Software Downloads ペー ジにログインします。
- b. Product ドロップダウンメニューから Apache Jsvc を選択します。
- c. **Version** ドロップダウンメニューで最新のバージョンを選択します。
- d. システムのプラットフォームとアーキテクチャーに対応する Red Hat JBoss Core Services Apache Jsvc を見つけ、Download リンクをクリックします。
- e. JBoss EAP インストールディレクトリーが含まれるディレクトリーでダウンロードした ZIP ファイルを展開します。 展開すると、JBoss EAP インストールディレクトリーと同じ階層にjbcs-jsvc-<VERSION> ディレクトリーが作成されます。例を以下に示します。

C:\Program Files - jboss-eap-7.0 – bin . . . jbcs-jsvc-<VERSION>

3. サービスのインストール ターミナルを開き、EAP_HOME\bin ディレクトリーに移動します。

以下は、スタンドアロンサーバーまたは管理対象ドメインのサーバーに新しいサービスを作成 する基本的な service.bat install コマンドの例になります。可能なオプションをすべて 表示するには、引数を指定せずに service.bat を実行します。

以下のコマンドを実行します。サービスのログレベルは必要に応じて変更してください。

a. スタンドアロンサーバーの場合:

service.bat install /loglevel INFO

b. 管理対象ドメインのサーバーの場合

Use the **/host** parameter to specify the name of the JBoss EAP host controller being controlled by the service. You can see valid values for the name by executing **ls /host** in the management CLI.

Replace **EAP_HOST_NAME** in the command below with your JBoss EAP host controller name. If you specify the **/host** parameter without providing a JBoss EAP host controller name, the name defaults to **master**.

service.bat install /host EAP_HOST_NAME /loglevel INFO

JBossEAP7 という名前の新しい Windows サービスが作成されます。

4. Services コンソールでの新規サービスの検証

Windows の Services コンソール (**services.msc**) を開き、サービスが作成されたことを確認します。

デフォルトのサービス名が使用された場合は、Windows サービスのリストに新しいサービス の名前 JBoss EAP7 が表示されます。サービスコンソールからサービスを起動および停止で き、さらにサービスの起動方法および起動時に関する設定を変更できます。 5. ターミナルから JBoss EAP サービスを起動および停止 ターミナルからサービスを起動するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サー ビス名を変更します)。

net start JBossEAP7

ターミナルからサービスを停止するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サービス名を変更します)。

net stop JBossEAP7

JBoss EAP サービスを削除する場合は、以下の手順に従います。

Microsoft Windows Server の JBoss EAP サービスの削除

 サービスが実行中の場合は、最初にターミナルを開き、net stop コマンドをサービスの名前 で実行してサービスを停止します。

net stop JBossEAP7

2. ターミナルで EAP_HOME\bin ディレクトリーに移動し、以下のコマンドを実行します。

service.bat uninstall

4.4. JSVC を使用して JBOSS EAP をサービスとして設定

The Apache Jsvc component of the JBoss Core Services collection can be used to run JBoss EAP as a background service on Red Hat Enterprise Linux and Solaris.

注記

Red Hat Enterprise Linux では、ネイティブメソッド を使用して JBoss EAP をサービ スとして実行することが推奨されます。

Jsvc は、Java アプリケーションをバックグラウンドサービスとして UNIX 系プラットフォーム上で実 行できるようにするライブラリーとアプリケーションのセットです。これにより、アプリケーションは 特権ユーザーとして操作を実行でき、実行後に非特権ユーザーに切り替えできます。

Jsvc はランチャープロセス、コントローラープロセス、および制御されたプロセスの3つのプロセス を使用します。制御されたプロセスはメインの Java スレッドでもあります。JVM がクラッシュする と、コントローラープロセスが60秒以内に JVM を再起動します。Jsvc はデーモンプロセスで、JBoss EAP 7 では特権ユーザーによって起動される必要があります。

JBoss Core Services Jsvc パッケージのインストール

- ZIP またはインストーラーによるインストールの場合
- 1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータルで JBoss の Software Downloads ページに ログインします。
- 2. Product ドロップダウンメニューから Apache Jsvc を選択します。
- 3. Version ドロップダウンメニューで最新のバージョンを選択します。

- 4. システムのプラットフォームとアーキテクチャーに対応する Red Hat JBoss Core Services Apache Jsvc を見つけ、Download リンクをクリックします。
- JBoss EAP インストールディレクトリーが含まれるディレクトリーでダウンロードした ZIP ファイルを展開します。
 展開すると、JBoss EAP インストールディレクトリーと同じ階層にjbcs-jsvc-<VERSION> ディレクトリーが作成されます。例を以下に示します。

/var/opt/ - jboss-eap-7.0 - bin jbcs-jsvc-<VERSION>

Jsvc を使用して JBoss EAP を起動するコマンドの例では、jboss ユーザーがすでに作成されていることを仮定します。JBoss EAP のユーザーを作成していない場合は、以下のコマンドを実行し、jboss ユーザーおよびグループを作成します。

groupadd -f -g 185 -r jboss # useradd -r -u 185 -g jboss -d EAP_HOME -s /sbin/nologin -c "JBoss" jboss

- Red Hat Enterprise Linux での RPM インストールの場合
- 1. Red Hat サブスクリプションマネージャーにログインします。
- 2. Subscriber Inventory のシステムをクリックします。
- 3. ご使用のオペレーティングシステムバージョンとアーキテクチャーの JBoss Core Services CDN リポジトリーにサブスクライブします。
 - a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合
 - jb-coreservices-1-for-rhel-6-server-rpms
 - b. Red Hat Enterprise Linux 7 の場合
 - jb-coreservices-1-for-rhel-7-server-rpms
- 4. root ユーザーで以下のコマンドを実行し、Jsvc をインストールします。

yum groupinstall jbcs-jsvc



注記

必ず JAVA_HOME システム環境変数を設定してください。

Jsvc を使用して JBoss EAP をスタンドアロンサーバーとして起動

以下のコマンドは、Jsvc を使用してスタンドアロンモードの JBoss EAP を起動および停止するために 使用されます。以下の表には、ZIP/インストーラー JBoss EAP インストールまたは RPM インストール のコマンドに必要なパスが示されています。

表4.1 ZIP/Installer インストールの Jsvc ファイルの場所 - スタンドアロンサーバー

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	EAP_HOME//jbcs-jsvc- <version>/sbin/jsvc</version>
JSVC_JAR	EAP_HOME//jbcs-jsvc- <version>/lib/commons- daemon.jar</version>
CONF_DIR	EAP_HOME/standalone/configuration
LOG_DIR	EAP_HOME/standalone/log

表4.2 RPM インストールの Jsvc ファイルの場所 - スタンドアロンサーバー

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	/usr/bin/jbcs-jsvc/jsvc
JSVC_JAR	/usr/bin/jbcs-jsvc/commons-daemon.jar
CONF_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/standalone/c onfiguration
LOG_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/standalone/l og

Jsvc を使用してスタンドアロン JBoss EAP サーバーを起動します。

```
JSVC BIN ∖
 -outfile LOG_DIR/jsvc.out.log
                                  \backslash
 -errfile LOG_DIR/jsvc.err.log
                                  \backslash
 -pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
 -user jboss ∖
 -D[Standalone] -XX:+UseCompressedOops -Xms1303m \
 -Xmx1303m -XX:MaxPermSize=256m \
 -Djava.net.preferIPv4Stack=true \
 -Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
 -Djava.awt.headless=true ∖
 -Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/server.log \
 -Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
 -Djboss.modules.policy-permissions \
 -cp EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR \
 -Djboss.home.dir=EAP_HOME ∖
 -Djboss.server.base.dir=EAP_HOME/standalone
                                                 \backslash
@org.jboss.modules.Main -start-method main \
 -mp EAP_HOME/modules \
 -jaxpmodule javax.xml.jaxp-provider \
 org.jboss.as.standalone
```

Jsvc を使用してスタンドアロン JBoss EAP サーバーを停止します。



Jsvc を使用した JBoss EAP 管理対象ドメインの起動

以下のコマンドは、Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを起動および停止するために使用されます。以下の表には、ZIP/インストーラー JBoss EAP インストールまたは RPM インストールのコマンドに必要なパスが示されています。

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	EAP_HOME//jbcs-jsvc- <version>/sbin/jsvc</version>
JSVC_JAR	EAP_HOME//jbcs-jsvc- <version>/lib/commons- daemon.jar</version>
CONF_DIR	EAP_HOME/domain/configuration
LOG_DIR	EAP_HOME/domain/log

表4.3 ZIP/Installer インストールの Jsvc ファイルの場所 - 管理対象ドメイン

表4.4 RPM インストールの Jsvc ファイルの場所 - 管理対象ドメイン

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	/usr/bin/jbcs-jsvc/jsvc
JSVC_JAR	/usr/bin/jbcs-jsvc/commons-daemon.jar
CONF_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/domain/confi guration

手順のファイル参照	ファイルの場所
LOG_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/domain/log

以下のコマンドを実行する前に、JAVA_HOME システム環境変数を設定してください。

Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを起動します。

```
JSVC_BIN ∖
 -outfile LOG_DIR/jsvc.out.log
                                 \backslash
 -errfile LOG_DIR/jsvc.err.log
                                  \mathbf{N}
 -pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
 -user jboss ∖
 -nodetach -D"[Process Controller]" -server -Xms64m \
 -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
 -Djava.net.preferIPv4Stack=true
 -Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
 -Djava.awt.headless=true \
 -Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/process-controller.log \
 -Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
 -Djboss.modules.policy-permissions \
 -cp "EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR" \
 org.apache.commons.daemon.support.DaemonWrapper \
 -start org.jboss.modules.Main -start-method main \
 -mp EAP_HOME/modules org.jboss.as.process-controller \
 -jboss-home EAP_HOME -jvm "${JAVA_HOME}"/bin/java \
 -mp EAP_HOME/modules -- \
 -Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/host-controller.log \
 -Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
 -Djboss.modules.policy-permissions \
 -server -Xms64m -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
 -Djava.net.preferIPv4Stack=true \
 -Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
 -Djava.awt.headless=true -- -default-jvm "${JAVA_HOME}"/bin/java \
&
```

Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを停止します。

```
JSVC_BIN ∖
-stop ∖
 -outfile LOG_DIR/jsvc.out.log
 -errfile LOG_DIR/jsvc.err.log
                                 \mathbf{1}
 -pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
 -user jboss \
 -nodetach -D"[Process Controller]" -server -Xms64m \
 -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
 -Djava.net.preferIPv4Stack=true

 -Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
 -Djava.awt.headless=true

 -Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/process-controller.log \
 -Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
 -Djboss.modules.policy-permissions \
 -cp "EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR" \
```

org.apache.commons.daemon.support.DaemonWrapper \
-start org.jboss.modules.Main -start-method main \
-mp EAP_HOME/modules org.jboss.as.process-controller \
-jboss-home EAP_HOME -jvm \$JAVA_HOME/bin/java \
-mp EAP_HOME/modules -- \
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/host-controller.log \
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
-Djboss.modules.policy-permissions \
-server -Xms64m -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
-Djava.awt.headless=true -- -default-jvm \$JAVA_HOME/bin/java

第5章 JBOSS EAP のアンインストール

5.1. JBOSS EAP のアンインストール (**ZIP** インストール)

- 1. 再使用される可能性がある変更された設定ファイルとデプロイメントを必ずバックアップする ようにしてください。
- 2. ZIP によるインストールでは、JBoss EAP が単一のディレクトリーにインストールされます。 インストールディレクトリーを削除して JBoss EAP をアンインストールします。
- 3. また、マシンにインストールされた JBoss EAP に依存するその他のスクリプトをすべて削除し ます。

5.2. JBOSS EAP のアンインストール (インストーラーによるインストール)

インストーラーを使用して JBoss EAP をインストールした場合、グラフィカルまたはテキストモード のアンインストーラーを使用して JBoss EAP をアンインストールできます。

JBoss EAP グラフィカルアンインストーラーの実行

- 1. ターミナルを開き、EAP_HOME/Uninstaller に移動します。
- 2. 以下のコマンドを実行して、グラフィカルアンインストーラーを起動します。

java -jar uninstaller.jar

グラフィカルアンインストーラーは以下の図と似ています。JBoss EAP インストールディレク トリーを削除したい場合はチェックボックスを選択します。

図5.1 JBoss EAP グラフィカルアンインストーラー



- 3. Uninstall (アンインストール) をクリックし、アンインストールプロセスを開始します。
- 4. アンインストールプロセスが終了したら、 **Quit** (終了) をクリックしてアンインストーラーを 終了します。

JBoss EAP のテキストベースアンインストーラーの実行

- 1. ターミナルを開き、EAP_HOME/Uninstaller に移動します。
- 2. 以下のコマンドを実行して、テキストベースのアンインストーラーを起動します。

java -jar uninstaller.jar -console

3. 指示に従って JBoss EAP をアンインストールします。

5.3. JBOSS EAP のアンインストール (RPM インストール)



警告

RPM を使用してインストールされた JBoss EAP インストールをアンインストール することは推奨されません。

RPM パッケージ管理の性質上、インストールされたパッケージおよび依存関係が すべて完全に削除されることは保証されず、パッケージ依存関係の不足によりシス テムが不整合な状態になります。

Revised on 2018-01-12 05:17:33 EST